



もっと
知りたい!

読み聞かせについてのQ&A

Q1 同じ絵本ばかり読みたがりますが、このままでよいのでしょうか？

A 心配はいりません。

お気に入りの絵本ができるのはすばらしいことです。子どもが満足のいくまで何度でも楽しむと興味・関心は広がってきます。気になるようでしたら、好きなページや場面から、少しずつジャンルを広げてみてはいかがでしょうか。

Q2 「のりもの」の本にしか興味を示さないのですが。

A 心配はいりません。

特に男の子は「のりもの」が大好きです。一緒に「のりもの」についてのストーリーを作ったりするのもよいかもしれません。また、「のりもの」の登場する「おはなし」を読んであげるということもできます。

Q3 絵本を読むと、字が早く覚えられますか？

しつけにもいいですか？

A 絵本は早期教育やしつけのための「教材」ではありません。

絵本を読むことでいろいろな知識が身につくことはあるかもしれませんが、子どもにとっては、絵本はコミュニケーションの時間であり、温もりを感じるスキンシップの時間でもあります。一緒に絵本を楽しむことで育まれる心の安らぎは、何ものにも代えがたいものではないでしょうか。

Q4 子どもが3才になりますが読み聞かせをしませんでした。今からでもよいのでしょうか。

A 何才からでも安心してはじめてください。

読み聞かせを続けているうちに、子どもが成長し、興味・関心が広がったり、情緒が豊かになっていく様子を実感できるようになっていきます。



参考・出典

『絵本で子育てを楽しく』（文部科学省 子ども読書の情報館）

『赤ちゃん向け絵本ガイド』（広島県立図書館 編集／広島県読書推進運動協議会／2011年）

Q5 仕事や家事に追われ、読み聞かせをする時間がとれないのですが、どうすればよいのでしょうか？

A 家族のライフスタイルに合わせてはかがでしょうか。

読み聞かせをする曜日や時間を決めておくくと負担無く気軽にできます。出勤前、お昼寝の前、食事の後、お風呂あがり、寝る前などできる時間を探してみましょう。また、子どもが「よんで」といったときに、ついつい忙しくて「あとでね」と言ってしまいがちです。今すぐは無理かも知れませんが、そのあとに、できるだけ読んであげましょう。

Q6 障害のある子どもが絵本を楽しむには…

A さまざまなタイプの絵本があります。

布の絵本やさわる絵本、点字絵本、CD絵本など、様々なタイプがあります。読み聞かせは子どもの成長の力となりますので、ぜひ子どもにあった絵本を探してみてください。その際、たとえば図書館や、都道府県・市区町村にある社会福祉協議会に相談するとよいでしょう。

Q7 どんな絵本を選べばよいのでしょうか？

A 世の中には本当にたくさんの絵本があります。その中からどれを選んでいいのか迷ってしまわれる方もいらっしゃるかもしれません。

読み継がれている本

良い絵本を探す近道の一つに「読み継がれている本」という視点があります。次代を超えて子どもに支持されている絵本はそれだけ魅力を備えた作品ばかり。まずは、お近くの図書館へ行かれてみてはどうですか。

ブックリスト・書評を参考に

図書館の職員や子どもの本の専門家たちが、実際に手渡した経験を参考に作った、おすすめ絵本のブックリストや書評がたくさんあるので、それらを参考にするのも一つの方法です。

基本は好きな本！

なにはともあれ、絵本の選び方の基本は、子どもの好きな本、そしておとなのあなたも好きになり読んであげたいと思う本です。

「紙の本」の良さって？ ～親子で「五感をつかって」味わいましょう！～

みなさんは、「紙」と「デジタル」、どちらの本をよく読みますか？ 幅広いジャンルの本や文章を「いつでも」「どこでも」「何冊でも」読むことができるのは、「デジタル」の本の良さですね。では、「紙の本」の良さは何でしょう？ そのメリットには、次のようなものがあります。

①五感を刺激する（手触り、色彩、におい等） ②目にやさしい ③集中しやすい ④ページをめくるワクワク感 ⑤書き込める 等

子どもは大人に読んでもらった絵本などをもう一度読みたいと思った時、一人で絵本を開き、読んでもらった時のイメージを思い出したり、新たにイメージを広げたりします。絵本が子どもの目に触れやすい場に置かれ、落ち着いてじっくり見ることができる環境は、子どもと絵本との出会いを一層充実したものにします。乳幼児期にこそ、読書活動の導入期に紙の本の魅力に触れ、その良さを五感をつかって味わう機会づくりをしてみましょう。

読み聞かせの大切さ

子どもは、絵本などのおはなしを聞くことが大好きです。物語の世界にひたる体験はこころを育てます。

物語による体験が想像力を育てます

子どもが物語を聞いているときは、登場人物になりきって、想像の世界を自由に楽しめます。登場人物のうれしさや悲しさ、痛みなど、さまざまな気持ちにふれることで、他人の感情や思いを知ることができます。

物語の中で、いろいろな世界を体験することにより、想像力などを身につけていきます。



親子の絆を深め、こころの安定につながります

絵本の世界を親子で一緒に楽しむことは、同じ体験を共有し、同じ時間を過ごすことです。このことから愛されているという満足感が得られ、こころの安定につながります。

豊かな言葉とこころが育まれます

絵本には、美しい言葉がたくさんつづられています。また、成長するにつれ、絵本で語られるさまざまなできごとや気持ちに触れることで、人の思いや痛み、生きる知恵を知る機会にもなっています。



子ども時代に楽しんだ本や、読んでもらった体験・その嬉しさはいつまでもこころに残り、生きる力としてその子の人生を支えます。

成長にあわせて

<p>妊娠期</p> 	<p>近年、妊娠期から絵本に親しんでいただく取組も広がっています。これから生まれてくるお子さんに読み聞かせをすることをイメージしながら、まずは、最寄りの図書館や書店などで絵本を手にとってみてはいかがでしょうか。気に入った本が見つかったら、声にだして読んでみましょう。</p>
<p>0～2歳頃 親子の遊びのひとつとして始めましょう</p>	<p>わらべうたや、絵本を仲立ちにして、心地よい声のやりとりやふれあいを楽しみましょう。</p> <p>~~~~~</p> <p>○子どもの好きなものが載っている ○身近な動物や植物が登場する ○生活の中の言葉にふれている ○言葉や音の繰り返しがあがる など</p> 
<p>2～6歳頃 絵本のジャンルを広げていきましょう</p> 	<p>会話ができるようになってくると、言葉の数が増えていきます。いろいろな実体験を大切にしながら、絵本や本のジャンルを広げていきましょう。また、文字を覚え始めても、読み聞かせは続けましょう。覚えてた文字を追うことに気をとられ、物語を理解したり、じっくり絵を楽しんだりすることの妨げになってしまう可能性があります。</p> <p>~~~~~</p> <p>おすすめの絵本 ○昔ばなし ○物語・童話 ○科学絵本 ○生きもの図鑑 など</p>
<p>6歳以上 読み聞かせを続けましょう</p>	<p>ひとりで本が読めるようになって、読み聞かせは続けましょう。</p> <p>小学校で文字や漢字、言葉を習い始めてもしばらくは読み聞かせを続けて、言葉や表現、物語そのものをお子さんとともに楽しみましょう。また、おうちの方が子どものころに読んでおもしろかった本について話をするというのもよいですね。</p> <p>そうした時間を経ることで、本がお子さんの人生に欠かせないものとなっていくことでしょう。</p>

図書館や園などの貸し出しや、おはなし会に行ってみるのもよいですね♪



出典

『絵本で子育てを楽しく』（文部科学省 子ども読書の情報館）

『資料【保護者の皆様へ】体にごはん、心に絵本～「読み聞かせ」は心の栄養です～』

（鳥取県「体験の風をおこそう」実行委員会・鳥取県教育委員会／令和5年4月）